

第2回年会について

行事担当幹事 下村 理（無機材質研究所）

第2回日本放射光学会年会は桜並木のすばらしい日本大学文理学部で4月6、7日の2日間にわたって行われました。参加者は主催者の予想の上限に近い244名で、時には会場が人で溢れてしまうといううれしい悲鳴も上げました。この時期に大学等で学会を開くのは新人生のガイダンス等のためにかなり難しいのですが、日本大学の宇野良清先生が実行委員長を快くお引受け下さり、おかげで実質的に初めての年会が見事な設営の環境で行うことができました。

プログラムについては年会のフォーマットがまだ定まっていないこともあって行事委員会が担当することにし、基本的な構成として、特別講演、テーマを決めた講演、ポスターによる一般発表という形式をとりました。

特別講演には自由ポジトロニウム消滅による放射光発生法を提唱されている大阪大学の池上先生にその原理と具体性について詳しく紹介して頂きました。また、英国で軟X線分光の実験を精力的に行っておられるエジンバラ大学のドノバンさんには最近の成果についてお話頂き、会に国際色を添えて頂きました。

テーマ講演については今回は3つのテーマを取り上げました。マシン関係では現在稼働中のマシンの現状とこれからの方向について4施設から5つの報告をお願いしました。利用研究関係としては、最近行われた大変興味ある実験結果の中から4つの研究についての講演をお願いし、さらに5人の方に放射光に対する夢について語って頂きました。講師の方の熱のこもったお話に最後まで多くの参加者が耳を傾け討論に加わっておられました。

ポスターについてはフォトンファクトリーの秋のシャットダウンのためか参加申し込みの出足はやや低調でしたが、最終的には80件近くのポスター発表が行われました。今回はポスター発表の特徴の一つは、施設の現状及び将来計画を紹介して頂くコーナーを設けた事です。呼掛けに対して11の稼働中ないし計画中の施設の発表が行われ、民間企業の活動も含めて我国の放射光施設の活性度がつかめたのではないかと思います。

年会についてのご意見、ご批判あるいはご注文などございましたら行事委員までおよせ下さるようお願い致します。なお、第3回年会については、来年4月下旬頃大阪で行うことを検討しております。

